

「近隣の自然の変化に目を向ける No. 8:
風薫る、若葉は光と色を装い大空に開く
Fresh green with breezing in light and color」

2020年5月13日

今年は例年よりも早く若葉が芽生え、5月に入る頃には、芦花公園の木々（ケケヤキ、楠木、クヌギなど）が緑の葉に覆われていました。その中で、銀杏（イチョウ）は小さな葉がまばらに枝に付き始め、背後の青空が透けて見える姿が春の拡がりを告げているように感じる。やがて葉が大きくなり、緑に覆われていきます。しかし、後追いの木々は、緑だけでなく黄緑色のクヌギ、薄黄色の花散里、濃い赤紫色の葉を付けたレッドロビン、南天などが登場。園内はすっかり命溢れる豊かな自然の園へと変化していきます。

そんな自然の変化を見ている中で、花に見間違える桃色の葉を付けた木と出会いました。木の名前が分からず、ネット検索したが出て来ない、諦めかけた時、薄黄色から脱色し緑の葉に変わる木が見つかった。葉の形を照合し、トウカエデ花散里と特定することができた（画像データの中に薄い赤みかかった葉を確認して結論）。しかし、桃色の新葉の写真はなかったので、もしかしたら本邦初かも？

時は八十八夜、新茶の季節。静岡に暮らす高校時代の友人から今年も新茶が送られてきた。感謝。電話すると、今年は3月が温かかったせいか成長が早く、4月末には茶摘みが終えたと言う。公園内の茶も新葉が程よく伸び、摘み時であった。

ここでは、木々が春の進行と共に変化する様子に注目したが、むろん同時に草花が次々と花を咲かせ、春を彩っています。人間社会とミクロな世界との闘いを知ってか知らずか、自然の美と安らぎと命の祭典が、5月の晴天下、華やかにダイナミックに展開中です。

http://sengawacx.com/LookNatureN08_2020.jpg